

雨森芳洲が朝鮮との国交回復交渉で活躍したかのように誤解するおそれのある表現である。

豊臣秀吉の侵略でとだえていた朝鮮とは、家康のときに国交を回復した。その交渉には対馬藩(長崎県)の宗氏があたり、雨森芳洲が活躍した。宋氏は、幕府の意を受けて朝鮮の釜山に倭館をおき、外交・貿易を進めた。そして、將軍がかわると、使節(朝鮮通信使)が江戸をおとずれた。

豊臣秀吉の侵略でとだえていた朝鮮とは、家康のときに国交を回復した。その交渉には対馬藩(長崎県)の宗氏があたった。宗氏は、幕府の意を受けて、朝鮮の釜山におかれた倭館で、外交・貿易を進めた。そして、將軍がかわるたびに、使節(朝鮮通信使)が江戸をおとずれた。